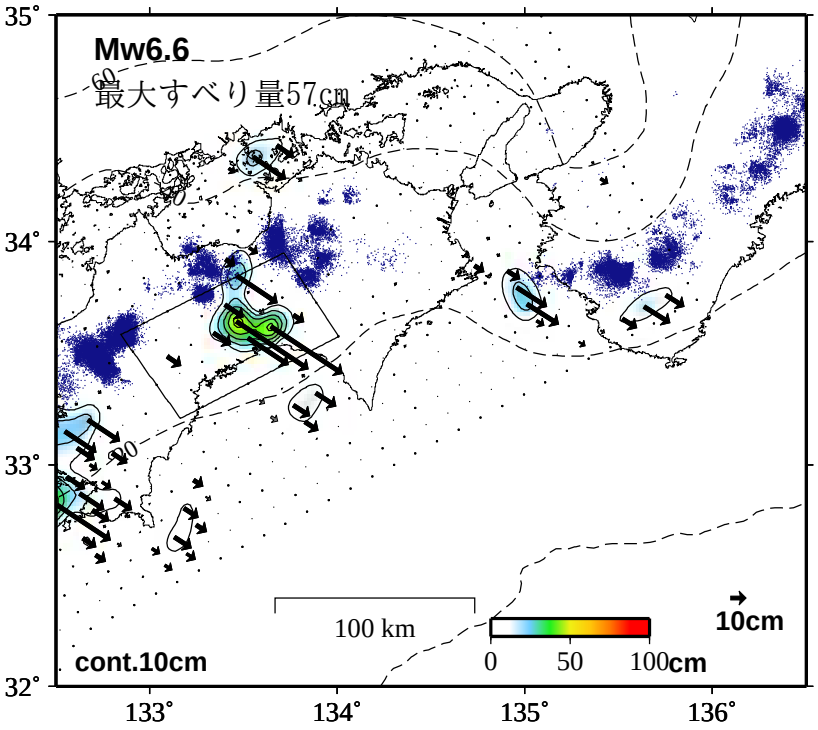
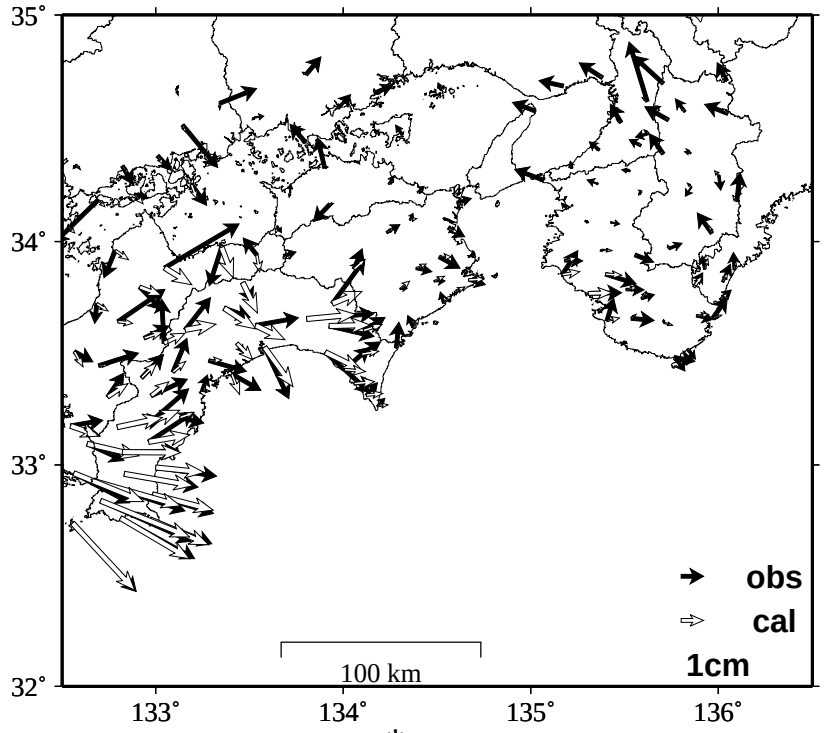
GNSSデータから推定された四国中部の長期的ゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布
(2019-01-01/2024-11-03)

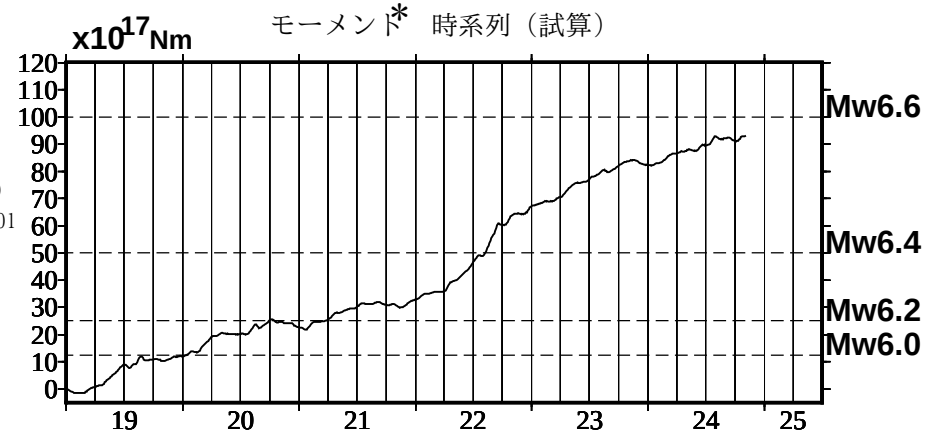


観測値（黒）と計算値（白）の比較
(2019-01-01/2024-11-03)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の３倍以上のグリッドを黒色で表示している。

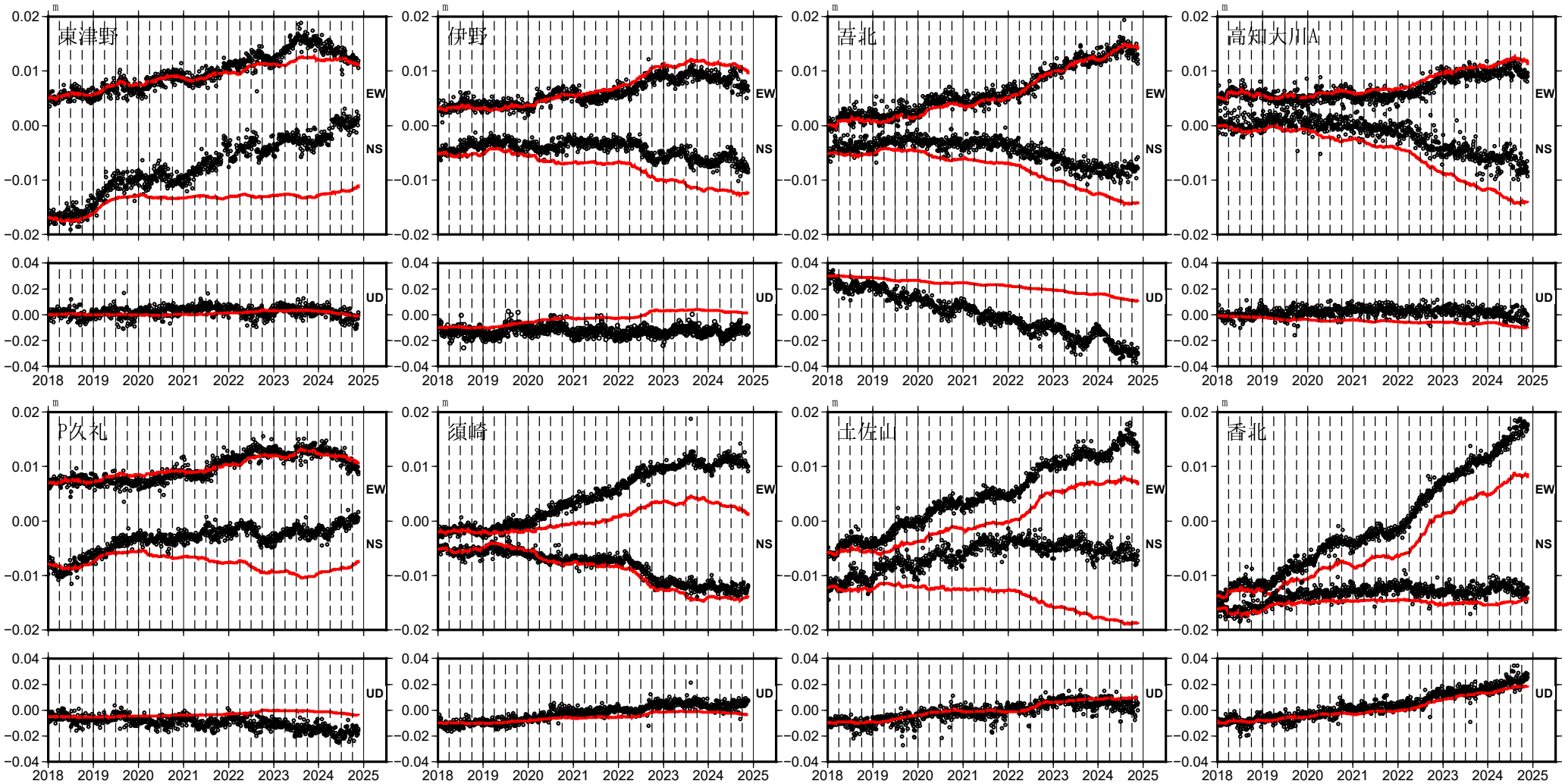
モーメント* 時系列（試算）

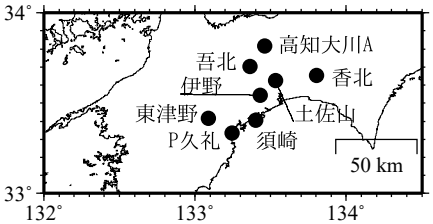


使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5解、R5解)
F5解(2019-01-01/2024-10-19)+R5解（2024-10-19/2024-11-03)
トレンド期間（九州・四国西部）:2006-01-01/2009-01-01(年周・半年周成分は補正なし)
（四国中部）:2017-04-01/2018-04-01（四国東部・紀伊半島）:2017-01-01/2019-01-01
モーメント計算範囲:左図の黒枠内側
観測値:３日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al.,2008)
すべり方向:プレートの沈み込み方向に拘束
青丸:低周波地震（気象庁一元化震源）（期間:2019-01-01/2024-11-03)
固定局:上対馬
＊電子基準点の保守等による変動は補正済み
＊平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震及び平成28年(2016年)熊本地震の粘弾性変形は補正している（Suito,2017,水藤,2017)。
＊Nishimura et al.(2013)及び気象庁カタログ(2017年以降)の短期的ゆっくりすべりを補正している。
＊共通誤差成分を推定している。

四国中部の観測点の座標時系列（黒丸）と計算値（赤線）

時間依存のインバージョン





EW,NS,UD:東西、南北、上下変動

国土地理院